

事務事業評価シート

(評価対象年度：平成30年度)

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名	泉州医療圏二次救急医療対策事業					②事業番号	4207
③事業類型	7. 負担金・補助金事業			④開始年度	平成 12 年度	⑤終了予定年度	年度 設定なし
⑥根拠法令等	法令	条例	規則	○要綱	計画等	その他	法令等の名称: 泉州医療圏二次救急医療対策事業に関する覚書
⑦実施手法	直営	全部委託	一部委託	○補助・負担	その他		
⑧関連予算科目コード	款	4	項	1	目	2	細目 4
⑨担当部名	健康福祉部			⑩担当課名	保健推進課		

2. 事務事業の現状把握【DO】

〔1〕事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)	対象指標(対象者数を表す指標)	単位
① 小児救急医療支援事業等 指定医療機関	① 小児救急医療支援事業 指定病院数	か所
② 病院群輪番制病院運営事業 指定病院	② 病院群輪番制病院運営事業 指定病院数	か所
(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)	活動指標(活動の量を表す指標)	単位
泉州医療圏(高石市・泉大津市・和泉市・岸和田市・貝塚市・泉佐野市・泉南市・阪南市・忠岡町・熊取町・田尻町・岬町「8市4町」)における救急傷病者の医療確保のため、泉州医療圏の8市4町が協力し、救急医療体制の整備・運営を行う。	① 小児救急医療指定病院数	か所
	② 病院群輪番制指定病院数	か所
	③	
(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)	成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
二次救急診療体制(休日・夜間の診療)の機能強化を行い、市民が急病や怪我等により、医療が必要な場合に、安心して救急医療を受けることができる。	① 小児救急医療支援事業患者数	人
	② 病院群輪番制運営事業患者数	人
	③	
(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつくか。上位施策との関連)	総合計画体系上の位置付け	
二次救急診療体制(休日・夜間の診療)の機能強化を行うことにより、救急医療体制の充実を図る。	政策(章)	2 みんなが健やかで、みんなが助け合うまち
	施策大(節)	2 すべての市民が生涯にわたって健康な生活を送れるまちをめざします
	施策中	1 医療環境の充実
	施策小	2 救急医療体制の充実

〔2〕各種指標値、事業費の推移

	指標名	単位	H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標	
対象指標①	小児救急医療支援事業 指定病院数	か所	7	7	7	7	7	指標値の推移における特殊要因などの説明
対象指標②	病院群輪番制病院運営事業 指定病院数	か所	19	20	20	20	20	
活動指標①	小児救急医療指定病院数	か所	7	7	7	7	7	—
活動指標②	病院群輪番制指定病院数	か所	19	20	20	20	20	
活動指標③								
成果指標①	小児救急医療支援事業患者数	人	14,597	13,655	13,527	13,527	13,527	—
成果指標②	病院群輪番制運営事業患者数	人	87,634	85,156	85,317	85,317	85,317	
成果指標③								
事業費	投入人員	人	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	事業費などの推移における特殊要因などの説明
	正職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	任期付職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	臨時職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	人件費(投入人員×単価)	千円	402	405	405	405	405	
財源内訳	直接事業費	千円	2,399	2,443	2,511	2,658	2,658	
	総事業費	千円	2,801	2,848	2,916	3,063	3,063	
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	府支出金	千円	0	0	0	0	0	
	受益者負担金	千円	0	0	0	0	0	
財源内訳	その他特定財源	千円	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	2,801	2,848	2,916	3,063	3,063	

〔3〕事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	小児救急など医師不足が深刻な中、泉州医療圏内での取組みによる救急診療体制が必要となってきた。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	小児科医を標榜する医療機関、小児科医の数はともに減少しており、その結果、診療時間外における救急病院への小児患者の集中と勤務する小児科医への過重な負担がみられている。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	—

3. 事務事業の評価【CHECK】

〔1〕目的妥当性(必要性)

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔1〕の評価 **A**

評価項目	評価及び理由・説明等	
①事務事業の意図すること(目的)は、上位施策(施策小)の達成に貢献しますか。	ア. する イ. ある程度 ウ. しない	休日夜間の医療体制の確保を図ることで、救急医療体制の充実に貢献する。
②税金を使って達成する目的ですか。 (市が関与する必要がありますか、市民(特に納税者)の納得が得られますか。民間に類似サービスはありませんか。)	ア. はい イ. ある程度 ウ. いいえ	休日夜間の医療体制の確保を図ることで、救急医療体制の充実に貢献する。
③対象範囲、単価、事業費規模は市民のニーズや社会環境に合っていますか。 (他団体と比較してどうですか。)	ア. 合っている イ. ある程度 ウ. いない	休日や夜間の診療時間外に受診する小児患者は、少子化傾向にもかかわらず増加し、市民の小児救急医療に対する需要が高まっており、社会環境に合っている。
④事務事業を休止・廃止した場合、市民生活(あるいは上位施策)への影響はありますか、ある場合それは大きいですか。	ア. 影響がある イ. ある程度 ウ. ない	休日及び夜間の急病に対する受け入れ病院がなくなると、早期に医療を受けることができず、回復が遅れる場合などのケースが増え社会問題化することが考えられる。

〔2〕有効性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔2〕の評価 **A**

⑤期待どりの成果が得られていますか。	ア. 得られている イ. ある程度 ウ. いない	市民の急病等の対応が図られた。
⑥今後事務事業を工夫することで成果向上の余地はありませんか。 (事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができますか。)	ア. ある イ. ない	現段階では具体的な案はでていないが、関係市町との連絡調整会議で確認していきたい。
⑦庁内の他部署で、類似の目的を持つ事務事業はありませんか、それらと統廃合や連携を行うことで、より成果を向上できますか。	ア. 類似なし イ. できる ウ. できない	—

〔3〕効率性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔3〕の評価 **A**

⑧成果を下げずに事業を工夫してコスト(直接事業費＋人件費)を削減する手法はありませんか。 (業務改善、業務の委託化、委託業務内容の見直し、IT化などはできませんか。)	ア. ある イ. ない	限られた予算と人員で実施している。
⑨受益者負担の適正化余地はありませんか。 (歳入確保はできませんか。)	ア. ある イ. ない	補助事業のため、受益者負担の考えは適さない。

4. 総合評価

総合評価	評価(A～D)	個別評価の結果を踏まえて課題等を整理	A: 現状のまま事業を進めることが適当 B: 事業の進め方に改善が必要 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休止・廃止の検討が必要
	A	質の高い持続可能な二次救急医療をさらに確立する。	

5. 改革、改善案【ACTION】

<今後の方向性>

ア	ア. 現状のまま継続 イ. 見直しのうえで継続 ウ. 終了 エ. 休止 オ. 廃止	(年まで) (年から) (年から)
	<今後の展開方針> - 重点化する(集中的なコスト投入) - 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える) - 効率化する(コストを下げる) - 簡素化する(規模を縮小する) - 統合する(他の事務事業と統合する)	
①改革、改善の具体案、実施年度など		—
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策		—